

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇全教会布教推進月間 終了◇

一手一つに 世界たすけの 歩みを進めよう

をテーマに、9月は交流布教、大教会にをいかけ、

全教一斉にをいかけデーを勇んでつとめさせて頂いた。



大教会のHP がご覧になれます！

月報には掲載されない写真もいっぱいです！

ぜひ一度ご覧下さい♪



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会九月月次祭

大教会9月の月次祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、「今月は、にをいかけ強調月間としてご本部より、布教により一層力を入れるよう声を

神殿講話

丸山一徳 役員



神殿講話全文

只今は皆さま方と月次祭をつとめさせて頂き、本当に嬉しく思います。私は七十七歳になりました、同じ年代でおつとめに参加できない方々もいらっしやうたと思うのですが、その方々の思いも込めて私も真剣につとめさせて頂き、本当に良かったなとしみじみと思わせて頂いております。今この国内では、元旦から

頂戴しておりますので、素直に親の声を聞かせて頂き、ちばと息一つになれるよう、年祭活動の時間に勇んでにをいかけ・おたすけに励ませて頂きます。」と奏上した。

その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、参拝者は共に勇んでみかくらうたを唱和した。

震災を見せて頂き、この世の中に自然にできている物で、ああ良かったなあ、結構だなあと思うことがなかなか見当たらない、そんな時代に入ってきております。

おぢばでも例年にないくらい暑い日が続いているそうでありますが、私が天理大学に通っている頃は、夏でもこんなに暑いという日はそんなにはなかったと思います。

私は三カ月前に一過性の脳虚血発作という身体の半分がまるつきりきかない、言葉を喋れないというところをおたすけ頂きましたが、本当に辛い辛い日々を送っていました。

神殿講話で何を伝えさせて頂いたら良いかと思案し、自分の身上のことをお伝えさせて頂くのが一番良いのではないかと思いましたが、お話しさせて頂きます。

「自然の恵み」という本があるのですが、ごく当たり前にできているということが非常に珍しいということは神様のご守護以外にはないなと思わせて頂くというのが重々ご存じだと思えます。

今日も当たり前、明日の朝も当たり前、それで今、大教会でよろこび日記を書かせて頂いておりますが、歳をとりまして、朝目覚めた時に親神様・教祖にお礼申し上げるのですが、なかなか喜び勇んで毎朝を迎えさせて頂いているのかというところ、いろいろなことが起きてきて、どうしてもごく少々ですが、不足に思ってしまうことが多々あります。そうやって日々通っているんですけども、実は六月に受けた脳外科の検査の時に、新たな梗塞が見つかり、それもちよっと大きいのが見つかったんです。その他に小さな梗塞があり、合計二カ所脳梗塞

けるってというのは、本当にありがたいなと思わせて頂きました。

このような日々の行いかどうかは分かりませんが、二カ所あった梗塞が消えたという不思議なご守護を頂けたのは、神様が繋いで下さっているのだなと感じました。

網徳にいても、なかなか神殿に上がってお参りもできないような状態ですが、その中でも、月次祭の日だけは神殿に上がって、前半後半は拍手木だけですが、勤めさせてもらう。そして、この一日一件、一枚を毎日続けていくのが、ご守護への近道なのかなと思っております。

今月いっぱい、ご本部から打ち出されている、布教の強調月間ではありますが、今月が終わったからといって、布教は終わりではありません。ですが、まずは今月いっぱいは何をおいても教会から出るということが一番ではないかと思えます。

教会の中にいたのでは伝わりません。とにかく一歩教会から出る。そうしていく中で、様々なご守護が頂けると思うのであります。

今、交流布教で歩かせて頂いている私たちなんです、何のために歩いているかという、やっぱり各教会で定めた「心定め」達成に向かう一環として歩いているんだというふうに、思わせて頂いております。

今月も本当にあつという間に過ぎてしまいましたが、リーフレット一枚でもいいですので、どうぞ教会から、また家から外へ出て、どなたかにお渡し頂きたいと思えます。

ですから、その前にリーフレットをもう一度しっかりと読んで、心に修めて、質問された時にはきちんとお答えできるように努めさせて頂きましよう。

今日もこれから皆さんと共に、にをいがけに歩かせて頂きますし、月末も全教一斉にをいがけデーで歩かせて頂きますが、一日も欠かすことなく歩かせて頂くことが大事だなと思えますので、皆様もいろいろな身上・事情があるとは思いますが、お互い様に勇んで努めさせて頂き、親神様のことをご存知ない方に一枚でいいからお届け願えればなと思わせて頂きます。



誠 網 分 教 会
田 中 雅 典



誠 網 分 教 会
加 藤 悦 里



誠 網 分 教 会
中 島 義 博



誠 網 分 教 会
小 笠 原 敏 子

修養科を終えて

〇修養科志願の動機、また、修養科生活はどうでしたか？

(小笠原) 私自身、まだまだ成人が足りないかと思う、どこが足りないのかを教えてください。私の欠点が見つかりました。八つのほりの中で三つ見つけました。また、心の中に隠している事がありました。神様は心の中までお見通しだとわかりました。

(中島) 昨年の五月に胆嚢摘出の手術を受け、退院してからも一年間、寝たり起きたりの日常でした。そんな時に、小笠原敏子さんに修養科を勧められ、二回目の修養科を志願することにしました。

(加藤) 暑い七月に、修了できたことは教養掛の先生方を始め関わって下さった皆様のお力添えの賜物と、心から感謝しております。

三ヶ月目のある日に、詰所で諭達第四号を拝読している時に、教祖は「ふしから芽が

出る」と、「成ってくる姿はすべての人々を成人へとお導き下さる親神様のお計らいであると諭され、周囲の人々を励まされた。」の一文に涙が溢れて声にならなくなったことがあります。

おちばでお見せ頂く事情・身上はすべて成人させて頂くためのものなのだと感じました。

(田中) 周りの方から修養科がとても良かったと、聞かせて頂き、私自身、特別大きな身の上等のしるしを見せられた訳ではなく、ごくごく単純に天理教・教祖の教えを知りたい、という好奇心に衝き動かされて志願を決心しました。

日々の生活の中で、様々な教友、先生方のお話を通して、教祖の通られたひながたの道の断片を一つ一つ拾い集めることができたのはとても良かったと思えます。

〇修養科を修了して

(小笠原) 修養科を終え、これから毎年修養科に入りたい気持ちで帰ってきました。私たちは人々の為に真心を尽くす生き方を教えて頂き、希望の持てる人生に変えて頂

ができていますと分かりました。担当のお医者さんに相談しましたところ、「大きい方は気をつけていかなければならないけど、小さい方は細い血管の方にごくわずかしかできていないから、そんなに心配することはないけれども、日々気を付けて通って下さい。」と言われました。

ところがその七月のある日、朝起きた時に体調が悪くて悪くて酷い状態でした。自分の中に脳梗塞があるということに当然覚えていたわけですから、もしかしてそれが何か悪さをしたのでないかと思、七月十四日に緊急で厚生病院へ家内の運転で行かせて頂きました。

最初に言われたことは、「何で救急車で来なかつたんですか」ということも聞かれまして、「事前に電話してありますか」というのも聞かれました。私は「もうしんどい

んとい」とそれしかなかったので、そのことを伝えさせてもらい、看護師さんにも「実はお医者さんから梗塞が二カ所できている」というのを聞いておりますのでそれが心配で来たんです。ということをお伝えさせて頂きました。

そしてMRI検査をして頂いた結果、新たにもう一カ所梗塞ができていたことが分かりました。この新たにできた方は、本当に細い血管の中にごく小さい梗塞が見られました。

しかし、今の段階では何ら体には不自由が起きていないので、大事には至っていません、ということをお伝えされました。

それからまたひと月経過観察をして、九月二十九日の大教会一斉活動日の日に再検査をし、頭と、あとは梗塞がどこから飛んできているのかを調べるために、頸動脈の血管を調べました。

そうしましたら、なんと不思議なことに、梗塞が一つも見つからなかつたのです。長年お世話になってるその先生からも、これは本当に不思議なこと

なことです。MRIでもはつきり二カ所写っていましたし、大変驚きましたと言われました。

梗塞が見当たらないと言うことが告げられ、ホッとすることが持ち同時に、また入院して病院のお世話にならなくて済んで良かったという気持ちになりました。

そして、今後のことを担当の先生と相談し、これまで通りに暮らすのも一つだけれども、やっぱりここで生活を改善できるように努力していきたい、ということをお伝えしました。

家内も食事の取り方などを相談し、注意しながらいろいろとやってくれているのですが、その他に何が必要なのかと考えた時に、まずは神様のことをきちんとさせてもらおうと思いました。

今大教会では、交流布教ということ、皆さんそれぞれの教会で一緒になって、布教に歩かれていますと思うんですけれども、私も八月一日に網昇さんと一緒に布教に出させて頂きました。

私は体はしんどかったです

けれども、網昇の会長さんのお歌ですと神名流しをさせてもらい、しんどい中でも我慢をしてお通っていくのも、一つの方法なのかなと思って、声を張り上げて、みかぐらうたを唱和しながら歩かせて頂きました。

今、毎日よろこび日記にもつけておりますが、一日一件一枚を目標にリーフレット配りをお続けさせて頂こうということ、今年はずっと頑張っております。

実際、歩くのも大変ですが、家内におさづけを取り次いで頂き、これまで通らせて頂いています。

実は昨日も厚生病院で検査があり、その帰りにバスで帰ろうと思、バス停に向かうと、ご婦人さんとお会いし、にをいがけのリーフレットをお渡しさせて頂きました。

そして、「ふし」あればこそというリーフレットだったので、この「ふし」というのは何なのかというお話をさせて頂きました。

そうしましたらその方は、なるほどなるほどという風にお話を聞いて下さいました。

話が終わるとその方は、ハンドバッグから、ハッカのお菓子のようなものを三粒下さり、バスを待つ時間を忘れることができました。ありがとうございます。

また、私の教会の近くのバス停は、始発で終点のバス停なんです。始発なので、出発まで多少時間があり、その待ち時間に、網走バスの運転手さんにもリーフレットをお渡しして、お話をさせて頂きました。

七月に身上を頂いて、ずっと今まで来ているんですけども、リーフレットを配らない日というのはほとんどないです。ですから、百枚、二百枚はあつという間になくなりました。

一日に一件、一枚ということになると、じゃあ今日はどうのあたりを行かせてもらおうか、どういってお話をさせてもらおうかと考えて出掛けるんですが、飛び込んでお話をさせてもらうのは大変なんです。でも、病院から出てきたご婦人さんや、バスの運転手さんにお話を取り次ぎさせて頂

いた事は本当に有難く感謝し
かありません。
(中島) 修養科は凄いいエネ
ギーの渦の中にいるようで、
車イスの人が三ヶ月目には歩
けるようになったり、私も
三ヶ月目から体力もだいぶ回
復しました。修養科生活を通
して、おちばの力、神様の力
をまざまざと見せられました。
(加藤) 年祭活動の最中にお
引き寄せ頂いた中の一人とし
て、おちばで見て頂いた足
の身を通して、何かの心得
違いをお知らせ下さったこと
をよくよく思索しながら、ご
守護頂いた傷痕を労い、自ら
手を離すことなく日々暮らし
ていきたいと思っています。
(田中) 修養科を終えた今、
一つの区切り、節目を迎え、
これからの日々を人にやさし
く、親切に思いやりをもって
接するひながたの道を目標に、
一人のようぼくとして、神様
の教えを素直に通じ、心の成
人を進め、「お道の教えって
良いな」と周囲から思っ
て頂けるような生き方を自ら体
現していきたいと思えます。



日常を過ごしていると、感
謝や喜びを感じられないこと
も増えてきて、心をリセット
したい気持ちで受講させて頂
きました。
一日目で天理教の基本の部
分を学ばせて頂き、たくさん

吸収することができました。
今回2回目の受講で、改め
ておさらいさせてもらいな
がら、忘れてしまっていること
を補充することができて、あ
りがたかったです。
感謝の気持ちを忘れず、毎
日おつとめ、ひのきしんに
つとめさせて頂きたいと思いま
した。そして、陽気ぐらしの
心を常に持っていたいです。
2日目の流しそめん大会
は最高においしく、とても楽
しい時間でした。今まで、やっ
てみたいと思っていたものが、
初めての経験だったので、嬉
しかったです。

事前研修会に参加する毎に、
今回も新鮮にお話を伺うこと
ができました。
今回は「かしまの・かりも
の」をついつい忘れてしま
うと感じ、そのためにも朝夕の
おつとめを心を込めてさせて
頂こうと思えました。
私にも何かできることはな
いだろうか、何かお役に立
てることがないだろうかと思
いましたが、一人でも多くの方
に、天理教の教えを伝えてい
く人生にしたいと思っています。

おつとめの一つ一つの意味
を知ることができ、全て陽気
ぐらしにつながっていること
また、私たちは陽気ぐらしを
することができ、その心を
持つことができ、少し安
心することができました。
今まで、神様の話はよく聞
いていて、神様はいるんだろ
うとは思っていたのですが、
信じ切れない自分もいま
ました。神様に心を寄せてみ
て、信じてみようと思えました。
神様は意地悪じゃないと思
えてよかったです。

修養科についての学びとし
ては52年ぶりの研修でした。
新しい視点から信仰を学びま
した。長年の間、間違えて覚
えていたおつとめの手を教え
て頂き、ありがたかったです。
最後の栗林先生のおさづけ
のお話に涙が止まりませんで
した。難病の長男に教えます。

誠網 菅野 玲菜
おつとめの一つ一つの意味
を知ることができ、全て陽気
ぐらしにつながっていること
また、私たちは陽気ぐらしを
することができ、その心を
持つことができ、少し安
心することができました。
今まで、神様の話はよく聞
いていて、神様はいるんだろ
うとは思っていたのですが、
信じ切れない自分もいま
ました。神様に心を寄せてみ
て、信じてみようと思えました。
神様は意地悪じゃないと思
えてよかったです。

誠網 馬道奈緒子
事前研修会に参加する毎に、
今回も新鮮にお話を伺うこと
ができました。
今回は「かしまの・かりも
の」をついつい忘れてしま
うと感じ、そのためにも朝夕の
おつとめを心を込めてさせて
頂こうと思えました。
私にも何かできることはな
いだろうか、何かお役に立
てることがないだろうかと思
いましたが、一人でも多くの方
に、天理教の教えを伝えてい
く人生にしたいと思っています。

修養科事後研修会(網走『ひながた』セミナー)ご案内
このセミナーは、修養科を修了して、教人資格研修
会を受講し、「ようぼく」から「教人」へと成人する
ための事前セミナーです。
最近、修養科を修了された方、また、以前に修了さ
れた方を含め、改めて「おやさまのひながた」を学び、
日々の信仰生活をより一層、喜びや笑顔に満ちた「陽
気ぐらし」へ、向かってみませんか。
【資格】 修養科修了者
【今年の開催日】 1泊2日(1日目13時開講、2日目
12時30分閉講)
※年に2回開催予定
○第2回目11月16日(土)~18日(日)
【内容】 「おやさま物語」でひながたを学ぶ、
教祖伝逸話篇の勉強とねりあい、「よ
ろづよ八首」講義、「ようぼくの使命」
講義、教人資格検定講習会案内、など
【会場】 網走大教会
【受講お供え】 1人3,000円
【お申し込み】 所定の申し込み書を細木善信(布教部)
へ提出 [090-2072-6130]

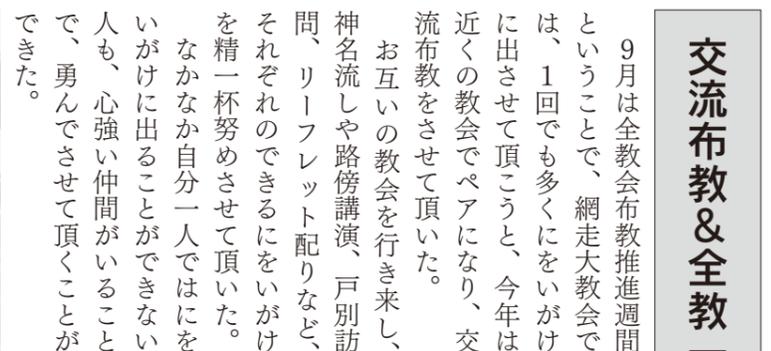


立教187年 人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教人
60名	29名	18名	11名
成 果 (9月末現在)			
9名	7名	8名	1名

9月は全教会布教推進週間
ということ、網走大教会で
は、1回でも多くにいがけ
に出させて頂くとうと、今年
近くの教会でペアになり、交
流布教をさせて頂いた。
お互いの教会を歩き来し、
神名流しや路傍講演、戸別訪
問、リーフレット配りなど、
それぞれのできるにいがけ
を精一杯努めさせて頂いた。
なかなか自分一人ではに
いがけに出ることができない
人も、心強い仲間がいること
で、勇んでさせて頂くことが
できた。



例年通り、12日の祭典終了
後には、ようき会ごとで3ヶ
所に分かれ、神名流し、路傍講
演、戸別訪問をさせて頂いた。
全教一斉にいがけデーの
28日~30日は、各支部で集ま
り、全国各地で教友たちがに
いがけに励ませて頂いた。



交流布教&全教一斉にいがけデー

動 静

納骨式
▼武田弘樹の霊様、紺野真理子の霊様の納骨式が9月13日、天理霊園にて大教会会長祭主のもと執行された。

9月人のマシ守護

○中席者 (2名)
常呂 相田典子
徳道 奥村謙一
○別席傍聴願 (1名)

大教会9月の動き

1日 役員会会議。直轄世話人会。縦の伝道日。大教会長、夕張大教会前教会長葬儀参拝(2日まで)
3日 お話し会
5日 会長、おぢばがえり
6日 会長、教人資格講習会講師(9日まで)
7日 お話し会
9日 網走支部例会会場役員会会議
10日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。育成部部会。婦人会例会
12日 月次祭。役員会会議。大教会一斉にをいが



13日 秋季霊祭
17日 会長、札幌方面直轄信者まわり(19日まで)
20日 廻廊すす払い
22日 神殿すす払い。縦の伝道日
23日 会長おぢばがえり。詰所23会
24日 会長、本部神殿奉仕つとめる
25日 教区祭お願いつとめ。縦の伝道日
26日 本部月次祭遙拝。会長、教区主事会出席。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる
27日 会長、本部秋季霊祭参拝、かなめ会出席。藤山重善役員、本部神殿奉仕つとめる
28日 全教一斉にをいがけデー(30日まで)
29日 大教会一斉活動日。直轄世話人会
30日 みそか会

秋季霊祭

秋季霊祭は9月13日午前10時より、神殿の儀が行われ、てをどり終了後、祖霊殿の儀が執行された。このたび、直轄・武田弘樹様、釧厚・在原政三様、金澤嘉廣様の霊様が新たに合祀された。

Table with columns for location (前方), participants (前中後半), and roles (司会, 指図方, 祭主, etc.).

立教187(令和6)年人のご守護成果表 (9月末現在)

Table showing church names and their respective numbers of members and participants as of the end of September.

9月 月次祭 9/12(木)

Table detailing the participants and roles for the monthly festival held on September 12th.

網走月報 別刊

令和六年十月号

教会長夫妻ねりあい感話

テーマ 「おやさま」



常呂分教会長 藤井 広志

私が常呂分教会の会長の理のお許しを戴いてから、約二年半になります。会長にならせて頂いてから、半年後の十月の大祭で諭達第四号をご発布頂きました。年祭活動が始まった訳であります。前に札幌の教会で会長をさせて頂いた時は年祭期間では無かったので、教会長になって初めての年祭活動

を迎えさせて頂きました。

ご本部の東札幌場で真柱様がご自分のお声でご発布される諭達第四号を大勢の方と共に聞かせて頂きました。大変有難かったです。祭典終了後すぐ臨時販売所で諭達第四号は「この道にお引き寄せ頂く道の子一同が、教祖の年祭を成人の節目として、世界たすけの歩みを一手一つに力強く推し進め、御存命でお働き下さる教祖にご安心頂き、お喜び頂きたい」と締められています。この年祭活動を通して御存命の教祖にお喜び頂きたい。この言葉を読ませて頂いて、私は、そうだ教祖は御存命だと改めて感じさせて頂きました。しかし同時にハッとしたのであります。よく考えたら、おちばに帰ってきて教祖殿に行くのを忘れていたんです。御存命と何度も聞いて心に治まっていたはずなのに、おちばに帰ってうっかり教祖殿に行つてなかったんです。御存命の理が心に治まっていなかった。大変反省させて頂きました。

二十年前に大教会の青年を終わらせて頂くとき、網走大教会五代三幣公明会長様に布教の家に行つ

てこいと言われまして、布教の家東京寮というところに行かせて頂き、一年間東京で布教させて頂きました。東京を一年間歩かせて頂き、初席者もお与え頂いたり大変充実した一年でしたが、東京寮では布教をしている中で教会の近くを通りかかったら必ず参拝するようにと教えて頂きました。ある時池袋の住宅街の近辺ですが、布教をさせて頂いていたら教会があったので参拝させて頂きました。そんなに大きくない教会で神殿も十畳位の小さな教会でした。神殿に入りましたら、神殿の右側に大きなテーブルがあり、高齢の御婦人さんが座っているんです。参拝させて頂き布教の家のものですとご挨拶させて頂きました。よく見ると上座の方に赤い茶碗が置いてあり、お茶が入れてありました。聞いて見ると「これは教祖のお茶です」と仰られ、その方はその教会の会長さんだそうで、その方が会長になる時、上級の会長さんに「自分は経験も不足しているし、自信もない。会長になつても何をしていいかわかりません」というと上級の会長さんは「そんな背伸びしなくてもいい。教会で

は、教祖にお茶を入れて、教祖の守をさせて頂いたらいいんだ」と聞かせて頂いて、それから神殿にテーブルを出して神殿で教祖の守をさせて頂いていたところ、神殿に参拝に信者さんやら近所の人が次々来てにぎやかな教会になります、との話を聞かせて頂き、教会長としてそういう通り方もあるんだな、と勉強させて頂きました。たしかに教会にはどの教会にも教祖殿があり、教祖が祀つてある、御存命の教祖がいつお出まし頂いてもいいように守をしているのは素晴らしいし、なかなかできないことだと思いました。

また布教の家では、布教する時は一人で歩いてるんじゃない。常に教祖のお供をさせて頂いているんだと教えて頂きます。布教している時は常に前に教祖が歩いて下さると聞かせて頂きます。布教の家で聞かせて頂いた話ですが、ある布教師の方がいたんですが、その方は一所懸命に布教に回られていた。布教中も教祖のお供をしつかりとさせて頂いていた。布教に出発するときも教祖と共に出発させて頂き、お宅の門に入る時は教祖にお先に入つて頂き、休憩する

ときは教祖の席を必ず用意してから教祖に先に座って頂く。毎日懸命に通っておられたんですが、なかなかをいはかからない。おさげどころか、お話を聞いてくれる人もいない。だんだん勇めなくなってきた。教祖のお供をさせて頂いているのに申し訳ないと思いついには戸別訪問さえできなくなってきた。布教に出ても公園に座る日々が続く、

これでは教祖に申し訳ないとせめて公園で十二下りをさせてもらうことにして、なんとかそれだけは続いたそうです。そんな中、その公園の近くに住んでいる人が、毎日黒い服を着て公園で踊ってる人がいるのを見ていて、あの人は何をしているのだろうかと思って、ある日、「あなたは毎日、公園で何をしてるんですか？」と声をかけてくれたそうです。布教師は「私は天理教の布教師で、布教に回る代わりに地域の方の幸せを願ってここで天理教のお祈りの踊りをしてます」とお伝えすると、「それは大変ご苦労様ですね。ところであなたが踊ってる時、前のベンチでいつも座っている赤い服を着たおばあさんは今日はいないんです

ね」と言われたそうです。その言葉聞いて、その布教師は、「教祖だ」と思うと涙が溢れ出たそうです。教祖はきちんと共に歩いて下さっていたんです。教祖は御存命です。しかし目に見えない。教祖、教祖と懸命に歩いている方には、にをいを残して下さる。ようぼくとしては大変心強い。そして教祖はしっかりと働き下さっています。

この年祭、常呂分教会では、心定めとして帰参者300名の心定めをさせて頂きました。お陰様で今月で120名を超えるご守護を頂きました。なんとかここまで三桁の数まで来しました。帰参者300名、年祭の前年はコロナ渦もあり一年間で10名20名の数でしたので大変大きな数であります。しかし十年前の百三十年祭には常呂では部内含めて320名の方がおちばに帰って下さいました。十年前のこの数が今の常呂でできるかは分かりませんが何とかご守護頂きたい。なんとか精いっぱい手を伸ばして年祭をつとめさせて頂きたいと思つて定めさせて頂きました。しかし、いざやってみると、ほんとにできるか？という信者さんの声や、数にこだ

わる姿勢がなかなか常呂の皆さんに伝わらなかったのです。そんな声があつて決めた私でさえ心がフラフラしていました。

そんな頃、家内の実家の静岡に行かせて頂く機会がありました。静岡で少し時間があったので、せっかくだから嶽東に参拝させて頂こうと思ひました。私が独身の頃、鈴木邦廣・六代会長様に色々ご指導も頂いたこともあり、一度家内と子供達を是非見て頂きたいと思ひ、嶽東の月次祭に参拝させて頂きました。無事に六代会長様、恵美子奥様に家内と子供をお見せでき大変有難かつたのですが、その時祭典で嶽東の神殿講話を聞かせて頂いたんです。嶽東の心定めは「おつとめ奉仕者何千人の御守護」と神殿に貼り出してあり、凄いなさすが嶽東さんと思ひました。神殿講話に立たれた先生は心定めのお話をされておつとめ奉仕者80名と仰つておられました。それも凄いなと思ひました。続けて先生は、うちはもう一つ心定めがあります。うちの教会ではおちばがえり300名の心定めをさせて頂きました。と仰いまし

た。その時私はうちと同じだと思ひました。しかも数も全く同じです。たまたま行つた嶽東の月次祭の神殿講話で、聞いたお教会の心定めがうちの教会と数も内容も全く一緒。大きな褒美を頂き、大変喜ばせて頂きました。教祖から、背中をポンと叩いて頂いたような気がしました。大丈夫だぞ。見てるぞ頑張れよと言つて頂いている気がしたんです。

心定めは治めてから定まるんじゃない。定めてから治まるんだ。と聞かせて頂きます。また小さい事は皆できてくれたもの。大きい事は七分できてても大きいもの。心定めをしてよかつたなと思ひました。そして常呂も最初は「帰参者300名」という心定めでしたが、声を掛ける時は嶽東で聞かせて頂いた「おちばがえり300名」と声を掛けさせて頂いてます。300名の方に

おちばに帰つて頂きたい。年祭活動も約半分を過ぎました。お互い様に心定めをしつかりと持つて年祭活動を最後までつとめさせて頂きましょう。教祖は、この私達の歩みをご覧になってきつと喜んで下さると思ひます。